

地域資源を活用した半島振興ワークショップ 「半島のじかん2017 in 伊豆」「半島のじかん2017 in 国東」の開催報告

国土交通省 国土政策局地方振興課 半島振興室

国土交通省では、半島地域の魅力を活かした交流の促進を図る手段として、半島を周遊する観光（「半島巡り」）を充実させることが重要であり、このことが地域住民の移動手段の確保や半島地域への定住の促進に大きく寄与すると考え、半島巡りを活用した地域活性化の方策を検討するワークショップを、地元の方々にご参加いただいて、今年度2回開催しました。1回目は、平成29年1月25日（水）に下田市民文化会館大会議室にて「半島のじかん2017 in 伊豆」を、2回目は平成29年2月22日（水）に豊後高田市役所コスモスホールにて「半島のじかん2017 in 国東」を開催しました。

参加者の内訳は、地域のまちづくり団体関係者、交通事業の関係者、行政担当者、一般の方等で、伊豆では70名を、国東では100名を超える方にご参加いただきました。以下に当日の様子をご紹介します。

●「半島のじかん2017 in 伊豆」

伊豆半島は、既に観光地としての認知度が高く、観光地を周遊する企画切符等の整備も進んでいる地域です。これらの企画切符は、地域資源の魅力を知ってもらうための有効な手段として活用されていますが、なお一層の普及のために、ワークショップにおいて、地元の地域資源を活かした魅力ある観光プランを作成し、どのように提案するかについて検討しました。

第1部では、地域での取組を【知る】として、伊豆半島における半島振興策の取組状況を地域の行政担当者から説明していただきました。

○第1部【知る】伊豆半島における半島振興の状況

初めに静岡県交通基盤部都市局地域交通課から、「南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会の取組状況」として、南伊豆・西伊豆地域の課題と現状及び観光客の公共交通利用促進のための主な取組についてお話いただきました。次に、伊豆地域インバウンド交通連絡協議会から、「伊豆ドリームパスの取組」として、商品の概要とパス誕生の経緯、販売の現状と今後の取組の可能性をご紹介いただきました。続いて、下田市企画財政課から、「下田市の観光の取組」について、※SWOT分析結果を基に分かりやすく解説していただきました。

※「SWOT分析」…組織や個人を「Strength（強み）」「Weakness（弱み）」「Opportunity（プラス外部要因）」「Threat（マイナス外部要因）」の4つの軸で評価する分析手法

○第2部【学ぶ】地域振興の取組事例

第2部では、地域振興についての着眼点や実践への見識を学ぶ場として、有識者の方2名から地域振興の取組事例についてご講演をいただきました。講演では、初めに、イーグルバス株式会社の谷島社長から「見える化と観光おこしによる交通まちづくりの挑戦」と題して、生活交通と観光客をうまく組み合わせる手法としてのハブバス停の考え方についてお話いただきました。



谷島社長による講演



江副社長による講演

次に、ブンボ株式会社の江副社長から地域資源を魅力的に発信していくために必要となる手法や参考となる全国の実例をご紹介いただきました。

○第3部【考える】グループワーク



各グループが考案した周遊プラン(伊豆)



周遊プラン発表の様子(伊豆)

第1部、第2部でご紹介いただいた事例を参考にし、「伊豆急下田駅を出発する周遊プランを考えよう」と題してグループワークを行いました。参加者は、職種や年齢が偏らないよう8グループに分かれ、

①スタートは伊豆急下田駅、②ゴールは伊豆半島内の鉄道駅、③1泊2日の行程、④移動は公共交通を使用（ない場合は新設の提案も可）というルールの下、「自己紹介」「伊豆半島の魅力を考える」「誰に売っていくか」「どんなストーリーとするか」という順で、活発な意見交換を重ねながら、様々な周遊プランを作成しました。自らの地域の良さを改めて知る好機となり、「住んでいても知らなかった地域の魅力」が思っていた以上にたくさんあることに気づいた参加者からは、喜びと驚きの声が上がりました。

その後、各グループから、作成した事例の発表を行いました。

- ・インバウンド向けの観光ルート
- ・新婚旅行で伊豆を訪れた夫婦への提案
- ・サーフィン好きの外国人向けのプラン
- ・カメラ好き女子用の撮影ツアー

等、大変ユニークなプランができ上がり、ご講演いただいた有識者と、コーディネーター

としてご参加いただいた東京農業大学の中山先生からは、発表されたアイデアの具体化に向けての講評を述べていただきました。

●「半島のじかん2017 in 国東」

国東半島には六郷満山文化を代表とした魅力的な観光資源が存在しているものの、それらを周遊する仕組みが必ずしも十分に整えられていない地域があるとされています。伊豆でのワークショップの概要を紹介した後、国東においても、まずは地域の取組を「知り」、地域振興の取組事例を「学び」、その上で「観光資源の点と点を既存の公共交通でいかに繋ぐか」「繋ぐことができない場合はどのような手段で繋ぐか」というテーマでグループワークを実施しました。

○第1部【知る】国東半島における半島振興の状況

初めに、国東半島宇佐地域・六郷満山開山1300年誘客キャンペーン実行委員会から、六郷満山文化の紹介と本年度の取組予定についてお話いただきました。次に、杵築市政策推進課から、「杵築市における地域公共交通形成計画について」と題して、コミュニティバスを利用した公共交通の維持・整備の状況をご紹介いただき、最後に、国東半島広域連携アンテナショップ運営協議会から、福岡市天神で営業しているアンテナショップの運営状況やこれからの展望についてお話いただきました。

○第2部【学ぶ】地域振興の取組事例

実際に杵築市に移住されたThe Japan Travel Company株式会社のポール・クリスティ社長から、「ありのままの国



ポール・クリスティ社長による講演



加藤先生による講演

東半島の魅力」について、「誘客の取組により、国東半島の住民達が自分達の住んでいる地域の良さに気づき始めた。」「国東半島は、開発の進んでいないことも大きな魅力の1つ。」といった、インバウンドの目線からのお話をいただきました。次に、名古屋大学大学院の加藤先生から、「観光客に楽しんでもいただける公共交通網をつくりだすために」と題し、現在の公共交通機関



講師を交えての意見交換（国東）



中山先生による講評

の課題について、「バス停に行き先と所要時間も表示すべき。初めて訪れる人は分からないことばかりで不安を抱く。分かりやすい表示で不安を解消すべき。おもてなしの精神が必要。」といった利用者の目線からのご指摘をいただきました。

○第3部【考える】グループワーク

伊豆同様、参加者を職種や年齢が偏らないように10グループに分け、①2泊3日の行程、②移動は公共交通機関を使用（ない場合は新設の提案も可）というルールの下、「国東半島を周遊するプランを考えよう」と題してプランを作成しました。各グループからは、

- ・山を歩いて鬼に会いに行こう
- ・2泊3日じゃ足りませんツアー
- ・国東歴史の旅
- ・心も体もきれいにするツアー

等のプランが発表されました。歴史的建造物



周遊プランの発表の様子（国東）

を生かしたツアーや、心に訴えかけるキャッチコピー等、魅力をいかに伝えるかに工夫を凝らすグループが多く目に付きました。ご講演いただいた有識者及びコーディネーターの中山先生の講評では、参加者が地元の活性化のために真剣に取り組む姿勢に賛辞が送られるとともに、完成したプランは中身の濃い魅力あるプランが多く、このワークショップ限りにしておくのはもったいない、是非地元の自治体は実現させるべき、といったコメントが寄せられました。

●おわりに

今回のワークショップは、「半島巡り」を通じて、魅力ある地域の地域資源を見直すとともに、他の地域にその魅力を発信しようとする積極的なアイデアが生まれる場となったと考えています。各半島に共通する課題についての認識を共有し、その解決に向けて地元の関係者自らが主体となって半島振興策を検討する、このような取組が、他の半島地域にも広がっていくことを期待します。また、官民の区別なく、地域のために共同作業を行うことを通じて形成されるネットワークは、今後、半島振興施策を進めていく上で大変重要なものと考えています。地域住民の方・企業・各種団体・行政等が一体となって取り組む半島振興施策が、このネットワークを通じてより多くの半島地域で効果的かつ持続的に展開されるよう、半島振興室も、引き続き、様々な施策を検討してまいります。